



## 若葉区地域福祉計画 推進協議会だより 第10号

平成20年12月10日発行

編集：若葉区地域福祉計画推進協議会事務局  
若葉区貝塚町1258-20（若葉保健福祉センター内）  
お問い合わせ先：TEL 043-233-8572

### 平成20年度 第2回 若葉区地域福祉計画推進協議会を開催

本年度第二回若葉区推進協が、平成20年9月27日(土)、若葉保健福祉センターにおいて開催されました。

前回の会議で武委員長・花島副委員長が選出されましたが、今回の会議で二人目の副委員長として奥田委員が選出されました。

副委員長の選出後、行政から「千葉市地域福祉計画推進協議会の設置について」「千葉市地域福祉推進モデル事業について」「若葉区地域福祉計画の進捗状況の把握について」それぞれ説明があり、地域福祉計画の進捗状況については、それぞれ水出委員、武委員より発表がありました。

行政の説明のあと、貝塚北部自治会「福祉を考える会」の活動事例と高齢者福祉施設「シャローム若葉」の事業内容について、それぞれ発表していただきました。具体的な取り組みについて報告されたということで、非常に関心が高く、活発な意見や質問がありました。

若葉区推進協では、引き続き皆様からのご意見・ご感想や地域での取り組みの情報をお待ちしています。お寄せいただいた情報は、地域活動を実践する際の参考としていただけるよう、何らかの形で広くご紹介できればと考えております。



### 副委員長就任にあたって

このたび、副委員長という大役をお引き受けすることになりました。

若葉区推進協が発足して3年目となりますが、私は、フォーラムに公募をしたことがきっかけで若葉区推進協のメンバーとして当初から参加をさせていただいております。

どのようにすれば地域に福祉が広がるか、そして、みんなが助け合うためにはどのようにすればよいのかを考えることは極めて重要だと思います。

地域福祉を推進していくために、推進協の果たす役割は大きいと考えておりますので、皆様のご指導・ご協力をいただきたく、よろしく願いいたします。

副委員長 奥田 ハツエ



## シャローム若葉の事業案内

今回の推進協では、地域福祉の実践例としてシャローム若葉より紹介がありました。

シャローム若葉は、介護保険制度で在宅部門の訪問事業・通所事業などのサービスや千葉市より委託を受けあんしんケアセンターを運営し、さまざまな相談に応じるなど、幅広い福祉サービスを提供しております。

シャローム若葉では、「地域と福祉の安心懸け橋」をキャッチフレーズとしており、地域福祉の向上を目指し、地域に根ざした事業を展開しております。

今回の推進協だよりでは、推進協で紹介のありました、地域ニーズに応えた施設機能を開放した事業などについてご紹介いたします。



### —おげんきくらぶ/ふれあいサロン美助人—

園芸教室・書道教室・カラオケ教室・陶芸・健康体操教室・楽器を楽しむ教室などを開催しております。

年齢制限は設けず、高齢者との交流を希望される方や趣味を深めたい方、またいきがい探しの方など幅広い年代の方が集まり、参加しております。

### —給食サービスの実施—

高齢者世帯の健康維持・増進・安否の確認・地域での孤立防止のため、近隣の在宅高齢者を中心に、配食サービスを実施しております。

栄養のバランスのよい手作りの食事を提供しております。

### —認知症サポーター講習会—

認知症について正しい理解・知識を学び、認知症の人やその家族を支援し、だれもが暮らしやすい地域をつくっていくボランティアである「認知症サポーター」を養成するための講習会を、地域住民を対象に、町内自治会と協力し実施しております。

キャラバンメイトを中心に、認知症対応型通所介護や共同生活介護の専門職員の支援方法を紹介しております。

### —介護員養成研修2級課程（毎年3月～7月）—

マンパワーを養成するため、介護員養成研修講座（2級）を開催しております。

### —地域ボランティア感謝のつどい・長寿を祝う会—

シャローム若葉ではたくさんのボランティアさんが活動されています。また、そのボランティアさんは、高齢者の方が多くいらっしゃることから、日ごろの活動に感謝し、地域ボランティア感謝のつどい・長寿を祝う会を開催しております。

お問い合わせ：シャローム若葉 TEL：043-234-5111

# 笑顔でつながる安全・安心・支え合いの輪

～貝塚北部自治会 福祉を考える会～

## 貝塚北部自治会について

### (1) 位置



### (2) 団地の状況

- ・約 320 世帯 1000 人
- ・働き盛りの世帯と高齢者のみの世帯（独居）が目立つ
- ・空き家の増加に新規入居世帯数が追いつかない

### (3) 自治会組織

理事会 14 名、組長 5 名、班長 26 名  
 総務部・環境衛生部・福祉厚生部・防犯防災部・文化教育部・会計・監査・福祉を考える会・老人クラブ・婦人部・子ども会・桜球会・友好会

### (4) 課題：福祉ニーズの変化に追いつけない自治会活動

社会の発展、変化に応じて住民のニーズも変化する。自治会活動もそれにつれて変っていくのは当然のことなのに、ついつい、なかなか組織や活動内容を変えられないという実情。

## いつ何をやったか

- H14.6 『この団地の高齢者福祉を考える』作成  
 高齢者に手を差し伸べる必要性、データの示す現状から、事態改善のための団地の現状の把握、その現状から何をすべきか。何が出来るか。提言として実施へのステップ、当面の活動内容、アンケートから予想されるニーズ、活動スケジュール等。
- H14.12 「福祉を考える会」第1回会合開催(自治会長ら11名)  
 資料として『この団地の福祉について考えてみました』を利用。
- <会合でわかったこと>  
 現状のデータ、この団地には特性があること、物まねは通用しないこと。この団地固有の特性を踏まえたものでないと成功は望めない。
- <「ではどうしたら良いか？」～提案や意見～>
- ・趣味等自然発生的グループへの働きかけ
  - ・行政頼みからの脱却(自助・共助・公助)
  - ・サークル先行がなくても福祉の組織化は可能
  - ・会長の呼びかけの効果 など

### 福祉を考える会について～活動の継続・発展を期して～

平成 14 年 6 月、町内会各組から 1 名ずつ選出された計 12 名の有志で結成相互支援活動の開始のため、住民へのアンケート調査の実施、老人クラブとの折衝、住民への PR 活動、利用会員・サポーター募集などの事前準備を行い、平成 16 年 4 月に自治会定期総会の承認を得て、同年 8 月 5 日から活動開始。

△苦労話・・・「今日 3 時に来て」という急な依頼  
 ……同一日に 3 人から依頼

◎良かったこと・・・継続して 4 年目に  
 ……この町内にセーフティネットができた  
 ……波及効果が期待できる

### ◎大切にしてきたキーワード

- ・「少しでも良い、出来る事から始めよう」
- ・「増改築のようなもの。仲良しクラブから脱皮しよう」
- ・「行動を起こす 口に出してみる まず話かけてみる」
- ・「団地内に必ずシンパがいる～団塊の世代・老人大学・ボランティア・福祉従事者」
- ・「ムリをしない」

昔と違う～サポートする側の状況も大きく変化している

## 相互支援活動のしくみ (区計画仕組み 2 の 4・・・身近なところから支え合いの機運を高める)



**[利用会員] (利用者: 33 人)**  
 町内自治会員概ね 65 歳以上の高齢者で身体上、精神上的理由で日常生活に支障があり支援を必要とする方

### <生活支援の実施>

- ・電気器具の修理・交換 (蛍光灯の取替えなど)
- ・家具の移動・廃棄
- ・福祉相談
- ・通院付添いや買い物の同行
- ・防災対策 (家具転倒防止)
- ・ペットの世話
- ・庭木の手入れ・草取り・芝刈り
- ・墓の草取り
- ・留守番



**登録サポーター (助ける側): 約 30 人**

連絡、領収書を預ける

利用料金の 10% を納入



**事務局 (コーディネーター)**

### <事務局の役割>

- ① 登録サポーターの中から適任者や依頼内容から利用料金を決定 (利用料金が記載された領収書を発行)。
- ② 1 か月毎に相互支援活動管理票を作成 (いつ・誰が・どこで・誰に・いくらで・何をしたかを記録)。
- ③ 相互支援活動管理票を四半期毎に自治会会長・福祉を考える会会長等に提出する。

### 今後の展望

- 区計画仕組み 3 の 7・・・要支援者を見守る
- 区計画仕組み 3 の 8・・・緊急時の支援システムをつくる

- ◇「貝塚北部あんしんネット」立ち上げのため H20.7 第 1 回会合、H20.9 理事会に提案 →ここから学んだこと
- ◇マンツーマン方式による災害・緊急時の支援組織の立ち上げ (このシステムに隣人の参加・手助けを組み込み地域社会の再生を図る)
- ★民生委員の活動支援

福祉は実践です